



大学礼拝

Chapel News No.134

第134号 東北学院大学 2015年12月25日

巻頭言

「クリスマスの喜び」

皆様、クリスマスおめでとうございませう。振り返ってみれば、クリスマスのお祝いの言葉を今までに何度、口にしたかわかりませんが、毎年この時期が来ると、いつもクリスマスの新しい喜びに満たされます。年を取れば、感動も薄れていくものと思つたら、そうではないのが不思議です。

クリスマスのそのような新鮮な喜びはどこから生じるのか、と考えてみますと、おそらくクリスマスが「命の誕生」を祝う時であり、新しい命の喜びが広がるからではないでしょうか。

しかも、この命とは、幼子イエス様の誕生であり、世界の救い主、「世を照らす光の誕生」とあるからでしょう(ヨハネ

大学礼拝

宗教部長

野村 信



による福音書第一章九節)。「まことの光」は人々の心を照らし、喜びの輪を広げていくのです。

イエス様が誕生される五百年以上前に、預言者イザヤはこの光を感じ取っていました。いや、この光は旧約聖書の人々にも希望として広がっていたと言ってもよいかもしれません。

闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。(イザヤ書九章一節)

この光は、苦しみ、暗くふさがれた世界に希望と喜びをもたらす光です。だからこそ、新約聖書では「まことの光」と呼ぶのです。イザヤは、その光を感じ、その喜びを先取りしていました。

あなたは深い喜びと大きな楽しみをお与えになり、人々は御前に喜びを祝った。(同二節)

クリスマスの喜びは、「まことの光」の到来であり、その光は、時の流れも場所も越えて全世界へ広がっています。この光に照らされ、私たちの「まことの喜び」をクリスマスを迎えたこの時に分かち合いたいと思います。



日本の クリスマス文化



学院長

佐々木 哲夫

26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。27 この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになつていて、名をマリヤとつけた。28 御使がマリヤのところに来て言った、「恵まれた女よ、おめでどう、主があなたと共におられます」。29 この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。30 すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。31 見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。32 彼は大きいなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。34 そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。36 あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。37 神には、なんでもできないことはありません」。38 そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。(ルカ福音書一章二六〜三八節)

「きよしこの夜」を歌ってクリスマスケーキを食べる日本のクリスマス風景には、子供の頃の記憶のような懐かしさを覚えます。それは、グローバルなことだと思つていましたので、外国人から何故日本ではクリスマスにケーキを食べるのかと問われた時は面食らいました。調べてみると、クリスマスケーキはケーキの不二家が一九二二年に初めて販売して広まった日本独自の習慣でした。そういえば、アメリカでは七面鳥が振る舞われますし、フランスでは切り株の形をしているブッシュ・ド・ノエル、イギリスではクリスマスプディング、ドイツではシュトレンが一般的です。どれも聖書に起源してのものではありませんが、それぞれの国のクリスマス文化となつていきます。

異なる文化が出会うとき、一方が他方を飲み込むか、他方が一方を拒絶するなどの反応が起きます。時には、両者が融合して新しい文化を創造することもあります。ローマ帝国のヘレニズム文化と属州ユダヤのヘブライ文化の融合

がキリスト教文化を創造したのは、その事例です。私たちの人生でも少なからず異文化遭遇を経験します。例えば、東北学院大学に入学し、新しい級友や講義に出会うなどです。

ところで、イエスキリストの母マリヤも強烈な体験をしました。突然天使ガブリエルと遭遇したのです。「天使は、彼女のところに来て言った。『おめでどう、恵まれた方。主があなたと共におられる』。マリヤは、この言葉に戸惑い、この挨拶は何のことかと考え込みます。そして、天使の受胎告知を『どうして、そのようなことがありえましょうか』と行って拒絶します。そこで天使ガブリエルは、言葉の真実を担保するしるしを指摘します。「あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になつています。神にできないことは何一つない。」すると、マリヤの心は、拒絶から融合へと動きます。マリヤは言います。「お言葉どおり、この身に成りますように」。

聖書の登場人物は、しばしば、神の言葉が与えられたときにすぐに信じて従うのではなく、言葉の内容の信憑性を裏付けるしるしを求めていきます。勇者ゲデオンなどは、イスラエルを救う使命を告知された時、なんと、重ねてしるしを与えるよう神に求めています(士師六・三六〜)。契約を重視するユダヤ民族の特性の萌芽は、聖書に多く記載されています。

クリスマスは、日露戦争後、国際社会の一員を意識するために日本に必要とされたものだとも言われています。クリスマスケーキの出現は、和魂洋才的文化融合の産物だったのかも知れません。クリスマスケーキ、クリスマスソング、クリスマス飾り、クリスマスプレゼントなど、今日の日本のクリスマス文化は豊かになりました。加えて、これらが暗示する実体、すなわち、イエスキリストの誕生の出来事と出会いたいものです。今年のクリスマス礼拝において告げられる神の言葉とみなさんとの融合を期待しています。



「クリスマスの物語」



学長
松本 宣郎

教会がキリストの誕生を祝うよう

になって、必ず福音書のクリスマス
の記事が読まれるようになったのだ
と思います。キリスト教徒の信仰は、
その福音書の、それだけでも大変印
象的で信仰深い物語に加えて、多彩
な物語を生み出してゆきました。そ
れらは聖書の記述を越える事実を知
らせるものでも、神学的な意義をも
つほど深いとも言えないのですが、
私たちの幼いときや、信仰への道を
たどる時期に、強い、心温まるイメー
ジを植え付けてくれたことは、私の
経験上からも確かにありました。行
事としてのクリスマスは、ローマ帝
国で四世紀頃から祝われ出したと言
われますが、これにまつわる物語も
沢山生み出されました。

子ども時代に最初に触れたのは、キ

リスト教幼稚園か教会学校のクリス
マスでの「生誕劇」です。もちろんそれ
は福音書の記述をページェントにし
たものですから、創作物語ではあり
ませんが、東方の占星術師が旅して
きて(マタイ)、飼い葉桶のイエスを
礼拝し、野原の羊飼いたちに天使の
お告げがあり(ルカ)、ヘロデが幼児
の殺害を命じたのでヨセフとマリア
はイエスと共にエジプトに逃れた(マ
タイ)、という展開は二つの福音書の
合成で、いささかなりとも原著に手
を加えて作品ではあったわけです。

絵本や童話にも創作ながらいいも
のがあります。「へいしのみみだ」はヘ
ロデの命令を受けた兵士が、洞窟の
奥に寝かされていた幼子を殺そうと
しても、その子のまなざしの深さと
温かさに打たれてかなわず改心した
という話です。この絵本そのものは
日本人の手になるのですが、原案は
下記ラーゲルレーヴの『キリスト伝説
集』の中に含まれている物語です。

マタイにある「東方の占星術師」の
話をふくらませた第四の占星術師と
いう物語もあります。この人はクリ
ストを拝む旅に遅れてしまい、生涯
さまよったあげく、ついにキリスト
に出会ったとき、彼は十字架の上に
いた、というような筋です。

クリスマスは、サンタクロース、プ

レゼント、パーティ、と時代と共に
果てしなく展開し、商業的にも利用
されています。本来の意味が忘れ去
られるほどです。少しさかのぼって、
イギリスの作家ディケンズ(19世紀)
の「クリスマス・キャロル」は産業化し
て殺伐とした空気の世界にほのぼの
としたキリスト教信仰への回帰をう
ながす物語で、日本でもひところよく
読まれていたと思います。今では少々
通俗的で合わないかも知れませんが、
アメリカの作家オー・ヘンリーの「賢
者の贈り物」は、笑い話でありながら、
貧しい夫婦のもの悲しくもある情愛
を示す、気の利いた短編です。夫婦
が互いにプレゼントを考える。お金が
ないから、夫は父の形見の懐中時計
を質に入れて妻のふさふさとした髪
の毛を飾るべっこうの櫛を買う。妻
は豊かな髪の毛を切り落として売り、
夫の時計につける金の鎖を買う。プ
レゼントを交換した二人は…、とい
う話です。

クリスマスに加えて、福音書の記
述はこのほかにも様々な物語を生ん
でゆきました。スウェーデンのノー
ベル賞作家ラーゲルクヴィストはキ
リストの代わりに釈放された死刑囚
バラバを主人公にした作品を書きま
した。同じ国の女性作家ラーゲルレ
ヴはもつと素朴でメルヘン的な『キ

リスト伝説集』で知られます。ヴェロニ
カという女性が、ゴルゴタに向かう
十字架を背負ったキリストの汗をぬ
ぐったハンカチにキリストの顔が写
された、という話などです。古い伝
説を利用したものでしょうが、「トリ
ノの聖骸布」を連想させて、決して信
仰的な深みのある話ではありません。

このように見てきますと、キリス
トが人類にもたらしたものが、人類
の想像力あるいは創造性にも強く影
響した、ということになるでしょう。
そこには過度の信仰心によるゆきす
ぎも見られます。これはキリストを
伝えるはたらきの難しさ、という本
質的な問題と関わるように思われま
す。けれど、私たちは、様々な物語は
物語として、その良さを味わいつつ、
その根源となっている聖書の言葉に
固着して、キリストが、人間存在に
命を与え、光としてこの世界にきた、
というクリスマスの真の意味に思い
を集中しなくてはなりません。

羊飼いたちの夜

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が現れ、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。

「恐れるな。見よ、わたしは、すべての人々に与えられる大いなる喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主、キリストがお生まれになった。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけてるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

「いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、御心にかなう人にあれ。」

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。

そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。

しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に留めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあげ、賛美しながら帰って行った。

(ルカによる福音書第二章八節〜二〇節 私訳)





スコットランドのクリスマス

原田 浩司

去る二〇一四年九月十八日、イギリスからの独立の賛否を問う国民投票が実施されて、脚光を浴びたイギリス北部のスコットランド。今年のラグビーW杯では、歴史的な勝利を収めて日本中にフィーバーをもたらした日本代表チーム「エディージャAPAN」が、グループ予選で敗れた唯一の対戦相手がスコットランドでした。

一七〇七年にイングランドと合併するまで、スコットランドはれっきとした独立王国でした。宗教上も、同じプロテスタントとは言え、イングランドの主流は「聖公会」であり、スコットランドのそれは「長老教会」であるという具合に、それぞれ異なる歴史を歩んできました。

かつて、私は二〇〇七年九月から二〇一〇年一月までスコットランドに留学し、かの地で3度クリスマスシーズンを過ごしました。今回、スコットランドのクリスマスについて、私の経験を踏まえてご紹介します。

首都のエジンバラは北緯約56度に位置します。札幌が約43度ですから、緯度は日本よりも高く、ロシアの首都モスクワとほぼ同じ位です。ですが、北海道を旅行したことのあるスコットランド人青年がこう言っていました。「冬の札幌は冬のエジンバラよりも寒い」と。北国ですが、エジンバラに雪が降り積もることは滅多に

ありません。

北国は冬の日照時間がとても短くなります。十一月にもなれば、朝7時でもまだ空は真つ暗で、8時頃から空が次第に白みはじめます。そして、9時頃によく朝陽が輝き、一日の始まりを実感することになります。とは言え、そんな爽やかな朝を迎えるのは珍しく、天候はどんよりの曇り空か、霧が立ち込めた日が多いのがかの地の特徴です。また午後3時になると、夜の帳に包まれていきます。

毎年アドヴェント



の季節になると、首都エジンバラでは目抜き通りのプリンス・ストリート沿いの公園でクリスマス・マーケットが開かれます。ドイツや北欧地域から輸入されたクリスマス関連の人形や小物を売る出店(右写真)や、クリスマスプディングなどの菓子や食べ物、売る店などが軒を連ねます。そして、一年間でこの季節だけ特別に小型の観覧車とアイススケートリンクが設置されます。スコットランドでも「ボクシング・デー(Boxing Day)」と呼ばれるクリスマス商戦が繰り広げられます。アドヴェントの期間、私は毎年、アジアからの留学生の自宅に招

待され、家族のクリスマス・パーティーに加えてもらいました。日照時間が短くて寒い冬ですが、スコットランドで暮らす人々は、この季節を楽しんでいるようです。

スコットランドの保守的な長老教会では、クリスマスやイースターといった祝祭日だけを特別視することを忌み、この季節に何か特別な行事や取り組みを一切しない教会もあります。ですが、一般的な教会では、23日の夜に教会に集いキャロリングを、24日の夜にイヴ礼拝を、そして、25日の午前にはクリスマス礼拝を行います。そして、スコットランドの多くの教会では、24日のイヴは23時半に再び教会に集い、キャンドルに火を灯して、「夜空を見上げる礼拝(Watchnight Service)」を行います。日付を跨いで天を見上げながら、誕生を告げる天使たちの歌声を聴いた羊飼いたちのように、また、星に導かれて東方からベツレヘムに辿り着いた3人の占星術の博士たちのように過ごし、御子の誕生を待ち望む特別な時が持たれます。日本では行われていない教会行事です。スコットランドの教会ではこうして、24日から25日にかけて、文字通りに「クリスマス(キリスト礼拝の意味)」として祝われています。

「ひとりぼっちじゃないんだよ」

聖書 マタイによる福音書28章16～20節



社会福祉法人
カリヨン子どもセンター
理事長／弁護士

坪井 節子

児童相談所と協力して、行き先を探す。医療やカウンセリングも受けられる。

設立以来十一年余、三三〇人以上が避難してきた。「ひとりぼっちじゃないんだよ。」ただその思いを伝えたくて、ひとりの子どもを、多くの大人たちがスクラムを組んで抱きしめる。親に見捨てられ、いじめられ、心身共に傷ついた子どもの回復は容易ではない。でも「ひとりじゃないんだ。一緒に考えてくれる人がいる。」それを信じてくることができたとき、子どもたちの心の扉が開き、命の灯が燃えだす時が来る。

神様は、イエス・キリストをこの世に送り、世の終わりまで私たちと共にいると約束してくださいました。ひとりぼっちでも苦しんでいる子どもたちに、ひとりでも多くこの約束を伝えたい。

私は幼児洗礼を受け、教会に通っていたが、高校生の時に、教会を離れた。無神論的実存主義に出会い、哲学科に進んだ。司法試験を受けて弁護士になった。聖書も開かず、祈りもせず、神から逃げて生きた。そして子どもの虐待に触れたとき、怖くて無理だと逃げた。

一九九四年、ある児童養護施設の中で、小学校一年の(仮名)和子ちゃんが、リンチのために命を落とすという事件を知った。親の虐待から救い出され、施設に措置された六歳の女の子が、施設の中で死んでいった。いったいこの

子は何のために生まれてきたのか。いったい誰がこの子の痛みを、涙を抱きしめてくれるのか。あまりの人間の無力さに、一晩中泣き続けた。そして二十数年ぶりに祈ることを思い出した。「神様、私はあなたを裏切った人間です。どうなっても仕方ありません。でも和子ちゃんだけは抱いてあげてください。あの子を抱いてあげられるのは、あなたしかおられない。」

朝方近く、枕元に和子ちゃんが立った。「どうして泣いているの。そんなに悲しいなら、私のような子どもがひとりでも減るように、立ちあがりなさいよ。そんな弱虫なら私の魂を分けてあげる。」そう言って、魂の炎を私の心に分けてくれた。私がおそろおそろではあっても、虐待に関われるようになったのは、それからなのだ。今は、それはイエス・キリストであったと思う。何の罪もなく、最も残酷な十字架刑で殺され、陰府にくだり復活されたイエス・キリスト以外に、虐待死した子どもたちに寄り添える方はいない。その方は、この私にも最後の最後まで寄り添ってください。私はやっと教会へ戻る事ができたのである。

◆坪井 節子氏

一九七八(昭和53)年三月
早稲田大学第一文学部哲学
科卒業

一九八〇(昭和55)年四月
東京弁護士会にて弁護士登録

一九八四(昭和59)年四月
坪井法律事務所開設

一九八七(昭和62)年十一月
東京弁護士会子どもの人権
救済センター相談員

一九八九(平成元)年四月
東京弁護士会子どもの人権
と少年法に関する委員会委員

二〇〇四(平成16)年六月
NPO法人カリヨン子ども
センター理事長

二〇〇八(平成20)年三月
社会福祉法人カリヨン子ども
センター理事長

主な著書

- 『子どもたちに寄り添って』
(いのちのことは社)
- 『子どもは大人のパートナー』(明石書籍)等

「神のなさる業」

—自分を振り返るようになったあけみさん—

聖書 コヘレトの言葉3章1節、11節



学校法人カナン学園
三愛学舎参与 (前校長)

澤谷 常清

「何事にも時があり 天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」

「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていなく。」

三愛学舎は三つの愛を基盤とする知的障がいを対象とする高等部単置の特別支援学校です。

「神を愛し」「人を愛し」「土を愛する」の三つの愛は、近代成人教育の生みの親と言われている、デンマークのグランドヴィの教育理念のようです。

私たちは、毎日の朝礼で聖書を読み、讚美歌を歌い、職員の証、そして祈り

をもって一日をスタートします。その中に、すべてのことは神によって与えられた「時」があり、あせることなく物事に臨みなさいと示されていることを学びました。

ここで、ひとつのエピソードを紹介いたします。

あけみさん(仮名)は軽度の知的障がいです。中学時代は欠席が多く、3年生になってから登校した日は年間で40日ほどでした。

本校高等部に入學してから、クラスのみんなと勉強することがイヤで職員室登校でした。カバンいっぱいゲームのソフトを詰め込み、イヤホンで音楽を聴きながらやってきます。お気に入りののぬいぐるみを2、3個をかかえ、私服で登校してきます。カバンの中に一冊の童謡の本が入っていました。童謡を歌うことが好きで、特に「真白き富士の嶺」が気に入り3番まで歌う事ができます。昔、12人の少年が、ボートで江ノ島に渡る途中、強風に煽られて転覆し全員が亡くなったという悲しい出来事を歌ったものです。

高等部3年生で修学旅行があります。あけみさんは中学の時は修学旅行に行かなかったようです。今回も「どうせ、俺は行けないんだろ?」とあきらめムードでした。「でも、江ノ島に行くんだったら行ってもいい」と条件を出してきま

した。そこで、東京方面の修学旅行に江ノ島のコースも盛り込むことになりました。その後、高等部3年を卒業し、専攻科に進みました。服装は私服、相変わらずぬいぐるみを抱えての登校でしたが職員室登校はなくなりました。クルスの仲間と一緒に過ごすようになったのです。

あけみさんが専攻科を卒業し、自分の心の移り変わりを文章に残しています。

「今の若い衆に伝えたい事」と題して、中学時代にじめられたこと、それを乗り越えたことが記されています。その中で、「いじめをすべて受け止めなさい。いじめられた事を将来の夢の一部にかえてしまえばいいんだ」と後輩たちにエールをおくっています。

あけみさんには、自らを振り返る「時」が用意されていたのです。5年間をかけて、ゆっくり、じっくりと自分づくりをしていたのです。

私たちは毎日欠かさず聖書を読み、祈りを大事にして37年になります。聖書の「何事にも時があり」そして、「隣人を自分のように愛しなさい」という事が、知らず知らずのうちに私たち一人ひとりの心の中に浸み、それが色々な場面であられるのです。

◆澤谷 常清氏

- 一九六八(昭和43)年四月
日産自動車株式会社設計部
実験課勤務
- 一九七三(昭和48)年四月
東海ビルメンテナンズ(株)勤務
- 一九七八(昭和53)年六月(株)
あゆみ出版書籍編集部勤務
- 一九七九(昭和54)年三月
(株)エデュカ・エージェン
シー学習塾勤務
- 一九八八(昭和63)年一月
アジア学院総務部会計勤務
- 一九九二(平成4)年四月
学校法人カナン学園三愛学
舎養護学校教師
- 一九九八(平成10)年
学校法人カナン学園三愛学
舎教頭
- 二〇〇八(平成20)年
学校法人カナン学園三愛学
舎校長
- 二〇一五(平成27)年四月
学校法人カナン学園三愛学
舎参与
- 二〇一五(平成27)年四月
岩手大学大学院教育学研究
科入学

Campus messages

各キャンパス担当の先生たちからのご挨拶

泉キャンパス

大学宗教学主任 原田 浩司



今年もクリスマススを祝う季節が巡ってきました。日本ではどこもかしこも「メリー・クリスマス！」と「楽しい、陽気な(Merry)」クリスマスとしてこの時を過ごします。クリスマスはどうして楽しく、なぜ陽気なのでしょう。

特に一年生の皆さんは、東北学院大学の学生として泉キャンパスではじめてクリスマスを迎えます。皆さんはこれまでクリスマスを楽しんできたと思いますが、そもそもキリスト教では、クリスマスにはどのような意味があるのか、どう祝うのか、なぜ喜ばしいのか、どうしてクリスマス・ツリーを飾るのか…。今年は、そんな「そもそも」に思いを巡らせながらクリスマスを迎えましょう。

泉キャンパスでは、近隣に住む市民を招く公開クリスマスが十二月四日(金)に、大学クリスマスが十二月十七日(木)に行われます。学生の皆さん、今年は本当のクリスマスに是非とも触れてください。

多賀城キャンパス

大学宗教学主任 吉田 新



最近、日本のパン屋などでもよく見かけるドイツのクリスマスケーキ「シュトレン」。ドイツの多くの家庭では、クリスマスを迎える日々に食べます。生地にドライフルーツやナッツを練り込み、表面には砂糖がまぶしているのでも甘いお菓子です。以前、ドイツに住んでいた時、私も友人たちとこのお菓子作りに挑戦しました。自分で作ってみるとたくさんの砂糖を使うことに気づき、びっくりしました。しかし、もともとシュトレンはバターも砂糖も使わない断食のための食べ物でした。実際、シュトレンは何日も食べられる保存食。イエスの誕生をお迎える準備のときであるアドベント(待降節)は、元来、断食をする期間でした。いつの頃からか、断食をして身を清める期間から、砂糖漬けの日々に変わってしまったようです。今年こそ、身を清め、砂糖を絶ちつつ、イエス・キリストの到来を迎える備えをしたいと思います。

土樋キャンパス

総合人文学科長 出村みや子



教会の暦、教会暦では11月29日の日曜聖日から待降節(アドヴェント)に入り、各キャンパスの礼拝堂のアドヴェント・キャンドルに火が灯されます。こうしてクリスマスまでの4週間、神の御子イエス・キリストの降誕を待望し、心の準備をする時として過ごします。

クリスマスは、人類が待望してきたこの世界のあるべき平和の到来を指し示しています。ルカによる福音書は、イエス・キリストの誕生が最初に告げられたのは、野宿をしながら羊の番をしていた羊飼いたちであったと記しています。羊飼いは当時の社会では軽んじられていた人々でした。その羊飼いに、クリスマス最初のメッセージが告げられ、「いと高きところでは、神に栄光あれ、地に平和、御心に適う人にある」との讃美が響いたというのです。クリスマスは、どのような状況に置かれようと、平和を待望するすべての人々の心に希望の光を灯す出来事であることを覚えたいと思います。

◆クリスマス礼拝のご案内◆

★大学クリスマス

泉キャンパス：12月17日(木)
10時25分～

土樋キャンパス：12月17日(木)
16時30分～

多賀城キャンパス：12月18日(金)
10時25分～

説教者：東京神学大学准教授
小泉 健 氏

歌と楽器による讃美

編集後記

クリスマスの音楽が響き、電飾を目にすると、今年もクリスマスを迎えよう。日本ではクリスマスは私たちの生活に溶け込んでいます。この時季には、光が嬉しく、温かい団欒、楽しい語らいのはずむ時です。大いにクリスマスを楽しみましょう。

ただし、この喜びの最も深いところで、幼子イエス様は馬小屋で誕生され、世界にまことの光、慰めをもたらしてくださいました。この喜びに私たちは目を開かされたのです。

二〇一五年一月二五日

東北学院大学宗教学部

編集者 野村

信

〒九八〇―八五二―
仙台市青葉区土樋二丁目三番一號